

畜産ネットワーク ちば

2010年5月24日
第18号

発行所 (社) 千葉県畜産協会
〒260-0026
千葉市中央区千葉港4番3号
千葉県畜産会館内
発行人 森 英 介

就任に当たってのごあいさつ



千葉県農林水産部
部長 重田 雅行

平成22年4月1日付
で千葉県農林水産部長を
拝命いたしました重田で
ございます。

千葉県畜産協会の会員の皆様には、日ごろから本県
畜産の振興に御尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

本県は全国でも有数の畜産県であり、お陰様で平成
20年畜産産出額については施策目標の一千億円を超
え、生乳で全国第3位、豚で第4位、鶏で第2位、畜
産全体で第6位の地位を維持することができました。

しかしながら、現在の畜産の置かれている状況は、
平成18年秋以降の飼料価格の高騰とその高止まりや経
済不況による食肉相場の低迷、牛乳離れによる消費減退
傾向など、依然として厳しい状況が続いております。

このようなことから、今年度は次の事業を主要事業
として取り組んでまいります。

1 県産食肉の魅力発信事業

- (1) 県産豚肉のキャッチコピー及び共通名称「チバ
ザパーク」並びにロゴマークを活用し、県産豚肉の
知名度向上と販売促進活動を行います。
- (2) 「ダイヤモンドパーク」の増産と高品質化を図
り、県産豚肉のトップブランドとして位置づけるこ
とで、イメージ向上を図るけん引役とします。
- (3) 新たな取り組みとして、県産牛肉の知名度向上
と販売促進を図るため、戦略の構築と体制づくりを
推進します。

2 肉豚生産安定対策事業

豚肉の枝肉価格下落時に基準価格との差額の8割を
補てんする国庫事業「養豚経営安定対策事業」に係る
生産者積立金の一部を支援することで、セーフティネ
ットの維持強化による養豚経営の安定化を図ります。

3 飼料自給率向上総合対策事業

飼料の低コスト生産による畜産農家の経営安定や安
全・安心な畜産物の安定供給を進めるため、飼料の共
同生産組織や飼料生産受託組織の整備支援、放牧の活
用、飼料用米の有効活用などについて総合的に取り組
みます。

4 優良雌牛生産スピードアップ事業

優秀な能力を持った若い乳用雌牛から受精卵の採卵
を行い、雌だけを生み分けられる技術を活用し、県内
酪農家の乳牛に受精卵移植を行うことで、乳牛改良並
びに優良後継牛確保のスピードアップを図ります。

5 畜産環境保全総合整備事業

家畜排せつ物法の管理基準に沿った適正な管理と家
畜排せつ物のたい肥化による有効利用を促進するた
め、たい肥化施設及び浄化処理施設等の施設整備に対
し助成します。

6 高病原性鳥インフルエンザ対策

「千葉県高病原性鳥インフルエンザ対策本部設置要
綱（平成17年2月）」により、高病原性鳥インフル
エンザの発生予防及びまん延防止並びに人への感染防
止等について、全庁的な体制の下に迅速かつ適切な対
応を図ります。

なお、現在（5月17日時点）、宮崎県において口蹄
疫が猛威をふるっております。新聞報道等からは、毎
日のように新たな発生が伝えられております。まん延
防止に対する現地で必死の努力が伝えられてきてい
る中で、千葉県も人的支援という形で応援もしてい
るところです。これ以上の発生を宮崎県の一部市町村
だけに止められるよう祈るとともに、改めて県内の生
産者及び関係者の危機管理体制を御確認くださいよう
お願いします。そして、疑いのある事例を発見され
た際には、ためらうことなくご連絡くださるよう、御理
解と御協力を重ねてお願いいたします。

最後になりますが、千葉県畜産協会会員の皆様方
の今年度一年間の御活躍を祈念申し上げまして、就任
のごあいさつとさせていただきます。

も く じ

・就任に当たってのごあいさつ	(1)
・平成21年度第2回通常総会	(2)
・平成22年度畜産協会の新しい事業推進体制がスタートしました	(2)
・宮崎県で口蹄疫が猛威、飼養管理に厳重注意を	(3)
・ちば畜産レディーズネットワーク通信	(3)
・マリンスタジアムinパーク2010 県産(国産)豚肉の消費拡大盛大に開催!!	(3)

・養豚経営安定対策事業の仕組み	(4)
・平成22年度千葉県畜産関係機関一覧表	(6)
・新マルキン事業がスタートします!!	(8)
・肉用牛繁殖経営支援事業について	(9)
・畜産機械施設リースのご案内	(10)
・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信	(12)
・「食の安心・安全」は「法令順守」から	(12)
・編集後記	(12)

平成21年度第2回通常総会開催

平成22年3月15日、千葉県畜産会館において、森会長出席のもと通常総会が開催され、平成22年度事業計画案及び収支予算案をはじめ全6議案が原案通り承認されました。

本年度から、仕組みや内容が大幅に変更になった事業がございます。説明会等を通じて事業の内容等を周知し、制度の有効な活用により、畜産経営の安定化と健全な発展を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

平成22年度畜産協会の新しい事業推進体制がスタートしました

新メンバーとして新城事務局長、榛葉企画経営部長が加わり新体制がスタートいたしました。

本年度もよろしくお願いいたします。

《 理事会 》				《 委員会 》			
会 長 森 英介				畜産物価格補償審議委員会			
副会長		理 事		専務理事 樋口 勝治		家畜衛生評議委員会	
				常務理事 米倉 義視		養豚振興委員会	
						エコフィード利用推進委員会	

《 事務局 》							
事務局長 新城 恒二							
総務部 次長 奥住 英雄		企画経営部 部 長 榛葉 雅和 (兼)次長 奥住 英雄		生産振興部 部 長 加藤 脩三		衛生環境部 部 長 薫田 耕平	
総務課 参与 佃 幸子 主査 長谷川洋子 主事 槌屋健太郎 臨時 胡口 常代		企画課 課長 大崎 道康 (兼)技師 宮上 竜也 (兼)主事 小倉 崇司 臨時 高橋 真理 瀧口 麻美 松井恵美子		経営支援課 課長 武田 善秀 嘱託 高梨 勝 (兼)臨時 胡口 常代		酪農肉牛課 技師 宮上 竜也 主事 小倉 崇司 臨時 鈴木 恵子 高倉寿々子	
				養豚課 主任技師 金杉 文一 (兼)主事 槌屋健太郎 臨時 鈴木真理子		衛生指導課 臨時 高橋 早苗 石山 操	
						環境指導課 (兼)課長 武田 善秀	
○庶 務 ○経 理 ○管 理		○情報の発信 ○肥育経営安定対策 ○生産者・流通加工・消費者との相互理解促進		○担い手育成支援 ○畜産経営支援・指導 ○牛群検定成績の活用 ○各種団体指導		○自給飼料生産振興 ○肉用牛生産振興 ○肉用子牛価格安定基金 ○子牛生産拡大奨励	
○豚の登録 ○養豚振興 ○肉豚価格補償 ○豚の改良(共進会) ○団体指導		○家畜予防接種の推進 ○家畜防疫互助基金 ○生産農場清浄化支援対策 ○死亡牛のBSE検査処理円滑化		○堆肥の生産流通 ○家畜排泄物法、コンプライアンス			
TEL : 043-242-5417		TEL : 043-242-6333		TEL : 043-242-8299		TEL : 043-241-3851	
						TEL : 043-241-1738	
FAX : 043-238-1255				FAX : 043-241-3853			

《 畜産団体事務局 》

- ★千葉県養蜂協会 ★千葉県自家検定推進協議会 ★千葉県畜産物消費拡大推進協議会
- ★千葉県馬事畜産振興協議会 ★ナイスポークチバ推進協議会 ★ちば畜産レディースネットワーク
- ★NPO 法人いきいき畜産ちばサポートセンター

宮崎県で口蹄疫が猛威、飼養管理に嚴重注意を

平成22年4月20日に宮崎県で口蹄疫が10年ぶりに発生してから現在（5月16日時点）まで、111事例の感染が確認されました。当初は牛での感染でしたが、4月23日からは豚での発生が確認され始めました。今回、宮崎で分離されたウイルスは国等の発表によりますと2010年に韓国や香港で分離されたウイルスと近縁であることが確認されました。今後とも、引き続き厳格な消毒や農場内への出入りの制限による防疫措置の徹底が重要です。

近年、物流や人とも国際化が進んでいる中、海外悪性伝染病がいつ日本で発生してもおかしくない状況にあります。万一の「口蹄疫、豚コレラ等」の発生に備えた家畜防疫互助事業があります。

本事業は口蹄疫等の海外悪性伝染病が万が一発生した場合、畜産経営への影響を緩和するため、生産者自らが積立を行い、発生時の損害を互助補償する仕組みに国が支援を行うものです。このことにより、発生農場や周辺農場の損失を最小限に止め、安心して経営を維持、継続することができます。発生して移動制限がかかれば入れません、是非この機会に100%加入されますようお願いいたします。

（家畜衛生部 薫田）

ちば畜産レディースネットワーク通信

平成22年度の総会等を次のとおり予定しております。

- 1 日時：平成22年6月8日（火）11:00～15:00
- 2 会場：エストーレホテル 千葉県東金市八坂台1-8
TEL:0475-55-1111 FAX:0475-55-1112
- 3 総会 11:00～11:50
- 4 紫陽花の宴 12:00～13:30

紫陽花咲きほころぶ季節の七変化の宴～レディース産物品の味（会費3千円）
レディースメンバー提供素材を一流シェフが華麗に調理、お届けします。

- 5 研修会 13:40～15:00

演題：「地産地消・レディースパワーで逆境を乗り切ろう！」

講師：ふれあいパーク八日市場有限会社 常務取締役 大木 秀子氏（千葉県女性初の地産地消の仕事を）

会員の皆様、関係機関の皆様、そして「レディースネットワーク」に関心をお持ちの方々のご参会心よりお待ちしております。

（事務局 新城）

総会&紫陽花の宴 &研修会のお知らせ



今回は落ち着いた雰囲気のできる会場で総会と宴、研修会を行います

マリンスタージアムinポーク2010

県産（国産）豚肉の消費拡大盛大に開催！！

平成22年5月5日（子供の日）、千葉マリンスタージアムにおいてナイスポークチバ推進協議会による恒例の県産豚肉の消費拡大PR活動が生産者・関係者78名の参加により開催されました。

当日の入場者数は 29,821人で、千葉ロッテ対日本ハム戦の試合前に、スタジアム正面特設ブースで、千葉県産豚肉を使った焼肉100kg・約1,200人分を格安にて販売。

当日始球式予定者のキャンセルにより、急遽生産者の手配により横芝フェニックス（少年野球チーム）選手がバッテリーでの始球式参加とうれしい対応となった。



セッティングを終えイベント開始前スタッフでの記念写真



急遽始球式に参加した横芝フェニックスの関係者
ピッチャー：高山ゆうや君
キャッチャー：川口れん君 （共に小学6年生）

またアンケート調査、抽選で100名にロース1kgプレゼント、子供を対象とした「焼肉食べて笑顔大賞」、少しでも生産現場を知ってほしいとの希望から設置した展示ブースでは気軽に生産者との交流も生まれ、全国第4位の養豚県「千葉」をアピールしました。

『食卓の元気は千葉県産ポークから・・・』とのキャッチフレーズで開催し今回11回目となり、「毎回美味しい豚肉が楽しみです。」「千葉県産豚肉は美味しいね。」との声も多く聞かれ、厳しい生産現場を今日一日は忘れようと参加した生産者の疲れも吹き飛ばす程のイベントとなりました。（生産振興部 金杉）

養豚農家の皆さんへ

養豚経営安定対策事業の仕組み

養豚経営の安定を図るため、豚枝肉価格が生産コストに相当する保証基準価格(460円)を下回った場合に、生産者の拠出と国の助成により造成された基金から、差額の8割を補てんします。

交付対象者

養豚経営者(耕畜連携、エコフィードの活用等の取組に努めようとする者)
(注)大企業は除く。

補てん対象豚

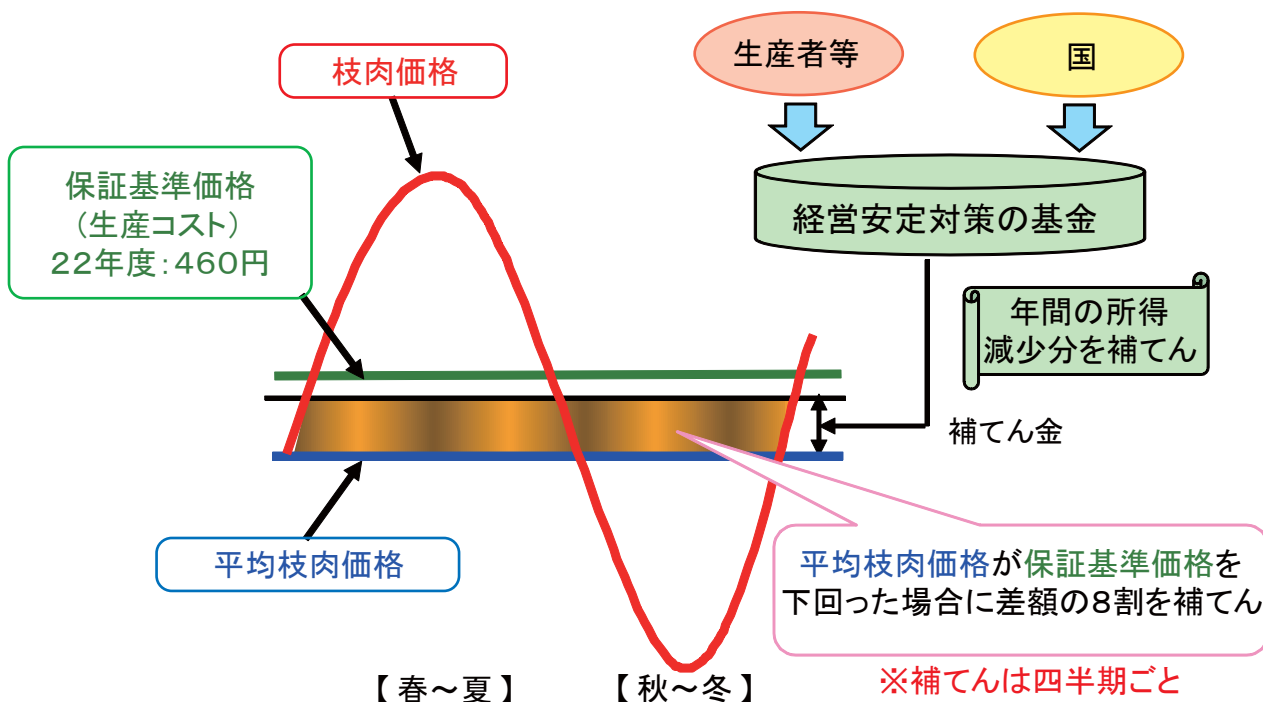
〈契約頭数〉
平成20年度の出荷頭数と同程度
〈補てん対象の枝肉規格〉
全規格(肉豚)

生産者積立金

22年度 580円/頭
(県補助80円/頭)

拠出割合

生産者:国=1:1



肉豚価格差補てん事業と大きく異なる部分はここだ！

1. 地域ごとにバラバラだった補てん金の算定方法を全国一本化！
2. 年間を通じて生産コストを下回った分を補てん
3. 負担割合について、生産者3:国1から 生産者1:国1に変更

負担割合
の軽減！

養豚経営安定対策事業の加入手続方法

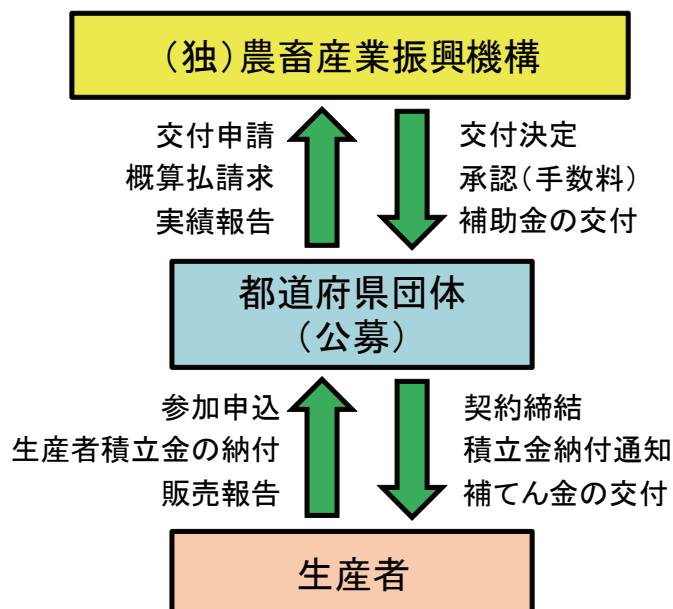
22年度は、手続方法が2種類あります。
いずれかをお選びください。

22年度のみ

現行型活用方式

これまでの肉豚価格差補てん事業と同様に、県団体を経由する交付ルートです。

22年度限りの交付方式！
従来の交付方式は、22年度のための措置ですので、23年度は右の直接交付方式を利用していただくことになります。



お問い合わせはこちら
社団法人千葉県畜産協会

担当：榎屋・大崎・加藤
電話番号：043-242-5417

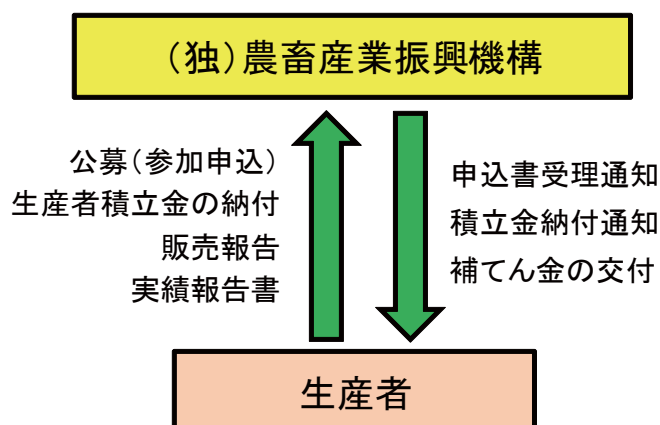
モデル実施。
23年度から
本格実施

直接交付方式

(独) 農畜産業振興機構から養豚農家へ直接交付する方式です。

養豚農家が事業実施主体！
事業実施主体は、養豚農家である貴方自身です！！
提出書類や提出期限に気を付けましょう！

書類は自分で5年間保管！
事業に関連する書類は5年間保管する必要があります。



お問い合わせはこちら
独立行政法人農畜産業振興機構
食肉生産流通部 食肉需給課

担当：伴・菊池・藤野
電話番号：03-3583-8699・1154・1153

平成22年度 千葉県 畜産関係機関一覧表

農林水産部 〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 部署・TEL 職名 氏名 043-223-2800 部長 重田 雅行 043-223-2801 理事 古澤 昭彦 043-223-2804 次長 中岡 靖 043-223-2803 次長 平山 利夫			部署 職名 氏名 病理生化学課 主任技師 関口 真樹 技師 萩原 妙子 技師 福井 陽士 細菌ウイルス課 課長事務取扱 稲毛 幹雄 副主幹 芦澤 尚義 上席専門員 松本 敦子 主任技師 佐藤 岳彦 主任技師 福井 聡子 技師 新居 友明		
畜産課 〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 FAX:043-222-3098 部署・TEL 職名 氏名 043-223-2931 課長 山端 輝一 043-223-2929 副課長 北崎 裕 043-223-2930 副課長 井口 明浩 企画経営室 043-223-2927 副課長兼室長 井口 明浩 043-223-2777 主幹 松木 英明 043-223-2921 副主幹 長谷川 俊則 副主幹 可世木 仁哉 主査 宮内 康夫 主査 大澤 浩司 主査 山口 篤 副主査 猪俣 一陽 副主査 田下 健一郎 技師 小林 夏奈子 生産振興室 043-223-2926 主幹兼室長 伊藤 尚志 043-223-2939 主幹 檜山 学 043-223-2943 副主幹 富田 耕太郎 副主幹 川村 治朗 主査 堤 節子 主査 大塚 洋功 主査 渡辺 聡 副主査 長友 浩 主任技師 丸山 武則 衛生環境推進室 043-223-2923 副技監兼室長 廣山 健一 043-223-2938 主幹 岡田 望 043-223-2944 副主幹 道本 昌信 BSE 対策本部 副主幹 風間 達也 043-223-3084 副主幹 渡辺 博剛 副主幹 渡邊 和彦 主査 永長 貴昭 主査 江森 美香 主任技師 石川 直子 技師 野中 太輔			東部家畜保健衛生所 〒283-0064 東金市川場1105-3 TEL:0475-52-4101 FAX:0475-52-3335 所長 三輪 律子 次長 羽毛田 稔 衛生指導課 課長 原 康弘 副主幹 長野 正尚 副主幹 金子 晴壽 上席専門員 古屋 聡子 上席専門員 飯田 直樹 技師 橋本 亮 技師 菅 賢明 防疫課 課長 篠原 栄里子 上席専門員 島田 純 上席専門員 明石 良信 専門員 一円 央子 技師 関根 大介		
中央家畜保健衛生所 〒262-0011 千葉市花見川区三角町658 TEL:043-250-4141 FAX:043-286-0090 所長 白井 幸夫 次長 中島 広史 主幹 笠井 貞義 庶務課 課長 佐藤 明久 主査 深澤 朋子 衛生指導課 課長 森田 秀雄 副主幹 青木 ふき乃 上席専門員 乾 昭志 技師 西川 潤 防疫課 主幹 笠井 貞義 副主幹 菅沢 淳一 副主幹 藤崎 俊治 上席専門員 坂元 依子 〒285-0072 佐倉市岩富町497 TEL:043-498-1431 FAX:043-498-1475 次長 稲毛 幹雄 主幹 陰山 潔 病理生化学課 課長 原 普 副主幹 石原 勇人 上席専門員 木下 智秀			南部家畜保健衛生所 〒296-0033 鴨川市八色52 TEL:04-7092-2304 FAX:04-7092-1434 所長 柴田 祥子 次長 山田 美代子 衛生指導課 課長 小野寺 道寛 副主幹 鈴木 正和 副主幹 長田 貴 上席専門員 平畠 淳 主任技師 高崎 舞 技師 倉地 充 技師 末政 奈津美 防疫課 課長 小谷 嘉宏 副主幹 片山 雅一 専門員 笠井 英 主任技師 田中 なほ子 技師 佐藤 隆裕		
北部家畜保健衛生所 〒287-0004 香取市岩ヶ崎台12-1 TEL:0478-54-1291 FAX:0478-54-5996 所長 大木 雅行 次長 鈴木 邦夫 主幹 高橋 岩雄 衛生指導課 課長 青木 茂 副主幹 前林 知男 副主幹 武石 佳夫 副主幹 山崎 修一 主任技師 関野 友利華 技師 塚原 涼子 技師 渡邊 章俊 技師 平野 亨 主任用務員 渡邊 あや子 防疫課 主幹 高橋 岩雄 上席専門員 小川 明宏 技師 阿部 敬 技師 綿村 崇宏					

畜産総合研究センター			〒289-1113 八街市八街へ16-1 TEL:043-445-4511 FAX:043-445-5447				
部署		職名	氏名				
		センター長	花澤	信幸			
		次長	斎藤	文雄			
		次長	小椋	滋			
		課長事務取扱	斎藤	文雄			
総務課		副主幹	吉野	彰一			
		主査	小川	敏夫			
		主査	並木	俊雄			
		主事	丸	達也			
		部長	山田	真希夫			
企画環境部	企画経営室	部長兼室長	山田	真希夫			
		主席研究員	渡邊	晴生			
		主席研究員	鈴木	一好			
		上席研究員	大久保	貞裕			
		上席研究員	遠藤	篤			
		研究員	西山	厚志			
	環境飼料研究室	室長	細谷	肇			
		主席研究員	杉本	清美			
		上席研究員	反町	裕			
		研究員	長谷川	輝明			
		研究員	名取	美貴			
		部長	村野	多可子			
生産技術部	乳牛肉牛研究室	室長	石崎	重信			
		主席研究員	川嶋	賢二			
		主席研究員	小林	正和			
		上席研究員	森	知夫			
		上席研究員	笠井	史子			
		研究員	湯原	千秋			

部署		職名	氏名	
生産技術部	養豚養鶏研究室	部長兼室長	村野	多可子
		主席研究員	高橋	圭二
		主席研究員	脇	雅之
		上席研究員	丸山	朝子
		上席研究員	斉藤	健一
		研究員	新垣	裕子
	生物工学研究室	研究員	赤木	友香
		室長	中根	崇
		主席研究員	坂元	克弥
		上席研究員	山口	倫子
		研究員	沼尾	真人

畜産総合研究センター 市原乳牛研究所			
〒290-0531 市原市国本602			
TEL:0436-96-1231 FAX:0436-96-0956		所長	青木 ひかる
		主幹	園原 邦治
		主査	三橋 恵美子
		上席研究員	永福 和明
		上席研究員	平尾 明
		上席研究員	井上 貢
		研究員	千葉 耕司
		研究員	辰野 直子

畜産総合研究センター 嶺岡乳牛研究所			
〒299-2507 南房総市大井686			
TEL:0470-46-3011 FAX:0470-46-3012		所長	福島 達哉
		主幹	村田 宏之
		主席研究員	山下 秀幸
		主査	小原 利枝子
		上席研究員	梶川 和彦
		研究員	久保田 尚
		研究員	行川 貴浩

農林振興センター名	部名	課名	所在地	職名	氏名	TEL	FAX
千葉農林振興センター		企画振興課	〒266-0014 千葉市緑区大金沢町473-2	副主幹	岩澤 進	043-300-1985	043-293-3916
		改良普及課		技師	松本 友紀子		
東葛飾農林振興センター		企画振興課	〒277-0861 柏市高田990-1 〒277-0005 柏市柏255-1	上席普及指導員	伊藤 禎昭	043-300-0950	043-293-2710
		改良普及課		普及指導員	有路 優子		
印旛農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒285-0026 佐倉市錦木仲田町8-1	主査	嶋村 和彦	04-7143-4122	04-7144-8260
		改良普及課		普及指導員	野村 俊介		
香取農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒287-0005 香取市佐原木1250-3 〒287-0003 香取市佐原イ4149-57	副主幹	貝沼 宏彦	0478-52-9192	0478-54-5617
		改良普及課		技師	伊藤 さやか		
海匠農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒289-2504 旭市ニ1997-1	上席普及指導員	惠畑 康利	043-483-1130	043-485-9502
		改良普及課		上席普及指導員	伊藤 郁子		
山武農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒283-0006 東金市東新宿1-11	普及指導員	村中 洋美	0478-52-9192	0478-54-5617
		改良普及課		副主幹	井出 基雄		
長生農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒297-0026 茂原市茂原1102-1	主査	伊藤 香葉	0478-54-1338	0478-55-1703
		改良普及課		技師	宮本 光浩		
夷隅農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒298-0293 夷隅郡大多喜町猿稻14	上席普及指導員	山口 岑雄	0479-62-0156	0479-64-2502
		改良普及課		普及技術員	本多 正隆		
安房農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒294-0045 館山市北条402-1	副主幹	篠塚 正則	0479-62-0334	0479-62-4482
		改良普及課		主査	青木 大輔		
君津農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒292-0833 木更津市貝渚3-13-34	上席普及指導員	菅谷 茂明	0475-54-1122	0475-55-8614
		改良普及課		普及技術員	平野 和則		
千葉農林振興センター		企画振興課	〒266-0014 千葉市緑区大金沢町473-2	主査	佐野 実乃里	0475-54-0226	0475-52-7914
		改良普及課		主事	安川 葉子		
東葛飾農林振興センター		企画振興課	〒277-0861 柏市高田990-1 〒277-0005 柏市柏255-1	上席普及指導員	飯島 浩介	0475-22-1751	0475-26-2234
		改良普及課		普及技術員	伊藤 静雄		
印旛農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒285-0026 佐倉市錦木仲田町8-1	上席普及指導員	君塚 時江	0475-22-1771	0475-25-2061
		改良普及課		普及指導員	鶴岡 則夫		
香取農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒287-0005 香取市佐原木1250-3 〒287-0003 香取市佐原イ4149-57	上席普及指導員	菊地 里佳	0470-82-4956	0470-82-5348
		改良普及課		普及指導員	松野 健二		
海匠農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒289-2504 旭市ニ1997-1	副主幹	鎌田 望	0470-82-2213	0470-82-3975
		改良普及課		主査	林 貴雄		
山武農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒283-0006 東金市東新宿1-11	上席普及指導員	岩瀬 裕子	0470-22-7131	0470-22-0097
		改良普及課		普及技術員	石川 浩司		
長生農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒297-0026 茂原市茂原1102-1	主査	猪熊 道仁	0470-22-8132	
		改良普及課		主事	荒井 真澄		
夷隅農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒298-0293 夷隅郡大多喜町猿稻14	上席普及指導員	大河原 澄香	0438-25-0107	0438-23-6698
		改良普及課		普及技術員	山崎 直		
安房農林振興センター	地域振興部	企画振興課	〒294-0045 館山市北条402-1	上席普及指導員	金子 貴一	0438-23-0299	
		改良普及課		普及技術員	田仲 景士郎		

肉用牛肥育
生産者の皆様へ

(肉用牛肥育経営安定特別対策事業)

新マルキン事業がスタートします！！

新マルキン事業の概要

事業参加者の要件が緩和されました。

肉用牛を肥育する生産者であれば、事業への参加が可能です。

- ・認定農業者・知事特認者の要件は削除されました。
- ・配合飼料価格安定基金に係る数量契約を確認させていただきます。

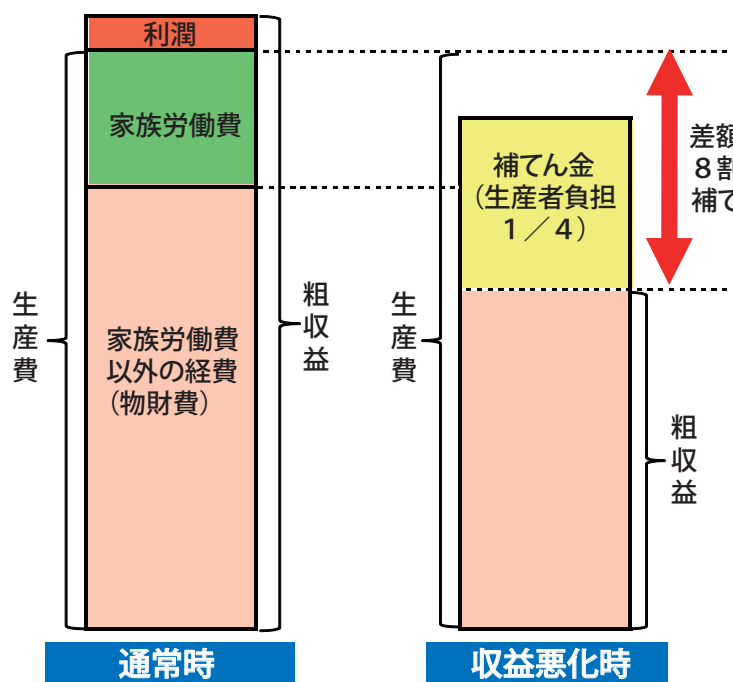
積立金単価、補てん金単価が全国一律となりました。

22年度から、地域で異なっていた積立金の単価、補てん金の算定方法を全国一本化しました。

補てん金の交付がない場合、積立金は戻ります。

補てん金の交付がない場合、または、交付額が積立額に達しなかった場合、事業終了時に拋出割合に応じた差額が返還されます。

事業の仕組み



肥育牛1頭あたりの四半期平均粗収益(全国平均)が四半期平均生産費(全国平均)を下回った場合に、その差額の最大8割を品種区分別に補てんします。

対象品種：

肉専用種、交雑種、乳用種の3区分

拋出割合：

生産者と国(農畜産業振興機構)が
1:3の割合で積立金を拋出

事業期間：

平成22年度～24年度(3年間)

新たな契約申し込みを
受け付けます！



◎平成22年6月30日までに、お申し込みください。

◎申込期間を過ぎると、途中契約はできません。

ご注意ください！

※ 詳細は、下記までお問い合わせください。

社団法人千葉県畜産協会
企画経営部 企画課 担当：大崎
電話：043-242-6333

新規事業!!

肉用牛繁殖経営支援事業について

事業の概要

全国一本のシンプルな仕組みに統合されました。

子牛生産拡大奨励事業と肉用子牛資質向上緊急支援事業が統合される形で、新しい事業が創設されました。

肉用子牛の四半期の平均売買価格が発動基準を下回った場合、当該肉用子牛当該四半期に販売又は自家保留された肉用子牛を対象として、発動基準を下回った額の $3/4$ が支援交付金として交付されます。

肉用子牛生産者補給金制度と一体的に実施されます。

肉用子牛生産者補給金制度の契約者で、補給金制度の個体登録が行われている肉用子牛が対象となります。（補給金制度に未加入の生産者はあらかじめ契約をしてください。）

事業への参加申し込みが必要となります。

肉用子牛生産者加入制度に加入しているほか、支援交付金を受けるためには、本事業の**参加申込書の提出が必要**となります。

なお、本事業は年度途中からでも事業参加が可能です。

事業の仕組み

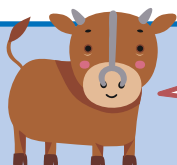
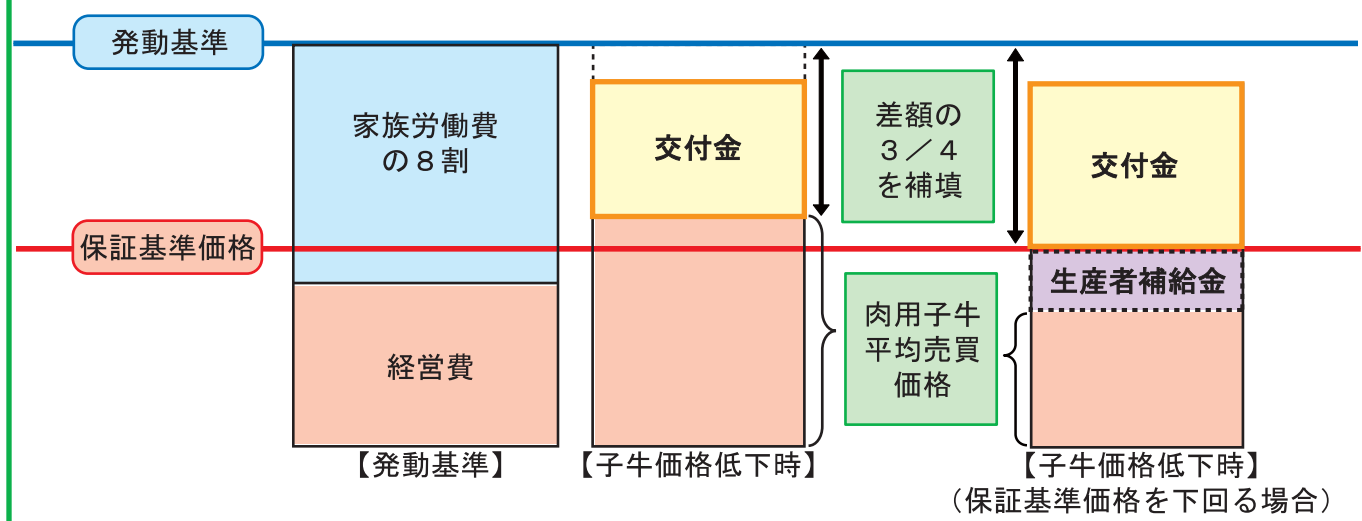
①対象品種：黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種

品 種	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種
発動基準	380,000円	350,000円	250,000円
保証基準価格	310,000円	285,000円	204,000円

③交付金単価：発動基準と平均売買価格（ただし、平均売買価格が保証基準価格を下回る場合は保証基準価格）の差額の $3/4$

④対象子牛：肉用子牛生産者補給金制度の契約肉用子牛

⑤事業実施期間：平成22～24年度（3年間）



詳細は
こちらまで！

社団法人千葉県畜産協会
生産振興部 酪農肉牛課 担当：小倉
電話：043-242-8299

酪農、肉牛、養鶏、養豚、
ふれあい牧場などの事業を
行っている皆様へ

畜産機械施設リースのご案内

平成22年4月から、より使いやすくするために次のような
改正をしました。より多くの皆様のご利用をお待ちしています。

リース期間の延長(短縮)ができます

利用者の要望によって、機械施設の法定耐用年数の60%から120%の範囲(4年から9年)で延長(短縮)できます。9年に延長した場合のリース料などを6年貸付の場合と比べてください。

中古機械もリースします

草地造成や自給飼料生産用の機械施設で一定の基準を満たすものは、中古機械もリースの対象となります。

ふれあい牧場もリースの対象になります

ふれあい牧場などの事業者は、機械(アイスクリーム、チーズ製造機など)や施設(動物のゲージ、ベンチ、牧柵など)をリース対象として利用できます。
本件の貸付利子は、リース残高の1.0%とします。

リースの特徴・仕組

経営資金が有効に使えます

機械施設の導入時に多額の購入資金を必要としませんので大切な資金を有効に活かすことができます。
また、貸付利子はリース残高の1.0%(年)で、有利です。

導入する機械施設、 購入業者が選べます

リース物件は、農家が自由に選定でき、購入価格も業者と交渉して決めていただきます。

リース物件は、リース終了後は 自分のものになります

リース期間が終わったら、購入価格の100分の10の額に消費税相当額を加えた額でリースを受けた方に譲渡されます。

リース期間中は、偶発的事故の 損害が補償されます

リース機械施設は割安な掛金で損害保険(動産総合保険)に一括加入されるので、リース期間中の火災・落雷・盗難等偶発的な事故による損害が補償されます。

農家には農業協同組合を通じて リースされます

リース物件は、農家を選んだ業者から当協会が購入し、農業協同組合にリースします。農家はこの農業協同組合から再リースされます。

特認貸付けもできます

リース可能な機械施設は別表のとおりですが、これ以外でも農林水産省生産局長の承認を受けてリースすることができます。詳しくは当協会へご相談下さい。

リース料の支払い例

例 [リース期間9年]リース機械価格100万円(消費税抜)、貸付開始4月1日の場合

(単位:円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	譲渡価格	合計
リース料	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000
消費税	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	50,000
利子	9,750	8,750	7,750	6,750	5,750	4,750	3,750	2,750	1,750	—	51,750
保険料	13,680	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13,680
年間支払合計額	128,430	113,750	112,750	111,750	110,750	109,750	108,750	107,750	106,750	105,000	1,115,430

例 [リース期間6年]リース機械価格100万円(消費税抜)、貸付開始4月1日の場合

(単位:円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	譲渡価格	合計
リース料	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	100,000	1,000,000
消費税	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	5,000	50,000
利子	9,625	8,125	6,625	5,125	3,625	2,125	—	35,250
保険料	9,260	—	—	—	—	—	—	9,260
年間支払合計額	176,385	165,625	164,125	162,625	161,125	159,625	105,000	1,094,510

注1:年間支払い合計額は、毎年、3月末と9月末の2回に分けて支払っていただきます。

注2:保険料は、この機械が自給飼料用・据付固定型の機械の場合で、機械の種類等によって若干異なります。

支払いの時期は第1回目のリース料の支払いと同時です。

注3:このほか、このリースを扱う農協等の事務手数料がかかる場合があります。

注4:中古機械のリース料についても上表に準じて適用されます。また、損害保険の対象にもなります。

主なリース機械と期間

貸付機械施設名	主要なリース機械	リース期間
自給飼料生産 利用機械施設	●トラクター ●ラッピングマシン ●ホイールローダー ●ロータリー ●ロールカッター ●コーンハーベスター ●バキュームカー ●ロールベアラー ●自動給餌機 ●モアコンディショナー ●ペールディストリビューター ●ヘイベイラー ●フロントローダー ●テッダー類 ●コーンプランター ●カッター ●飼料攪拌機 ●ワゴン類 ●フォレージハーベスター ●マニアスプレッダー ●ディスクモア等モア類 ●レーキ類 ●播種機 ●FRPサイロ	6年
	●ダンプカー	5年
搾乳施設	●パイプラインミルク ●ミルキングパーラー ●搾乳ロボット ●搾乳ユニット自動搬送装置	6年
生乳冷却貯蔵施設	●バルククーラー ●プレートクーラー	6年
生乳検査機械	●生乳成分測定器	6年
精液保管等施設	●凍結精液保管器 ●精液輸送車(特殊自動車の場合は5年) ●液体窒素保管器 ●補給器	6年
畜舎環境改善 機械施設	●消毒機 ●消毒用自動車(特殊自動車の場合は5年) ●細霧装置 ●節電装置 ●哺育器 ●通風装置	6年
中小家畜管理機械施設	●自動給餌器 ●豚分娩ゲージ ●鶏舎用カーテン巻上げ機	6年
特認機械施設	●検査分析機器 ●孵卵器 ●アイスクリーム製造機(従前の貸付例)	

※リース期間は、要望により、上表の6年のものは4年から9年、同5年のものは2年から4年にすることができます。

この表は、リースしている機械の一部です。この表以外にもリースできる機械はたくさんあります。

詳しいお問い合わせは・・・

(社)千葉県畜産協会、お近くの農業協同組合又は(財)畜産近代化リース協会までご連絡下さい。

(財)畜産近代化リース協会

TEL:03-3584-0899

FAX:03-3584-0758

(社)千葉県畜産協会 経営支援課

担当:武田

TEL:043-242-6333

FAX:043-238-1255

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信

当サポートセンターが（社）千葉県畜産協会から委託された2本の調査事業（人材活用モデル体制整備事業及び畜産生産性向上促進総合対策の一部）は、平成21年度をもって終了しました。関係機関および調査に参加していただいた会員の皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

平成22年度からは新たに下記3本の事業に取り組むことになりましたので、関係機関等のご指導と会員の皆様のご協力をお願いいたします。

① 畜産経営支援組織連携強化事業（平成22～23年度）

これは、畜産経営の改善を図るために各畜産支援組織が連携して各職員の技術を向上させようとする中央畜産会の事業です。実施にあたっては、千葉県畜産協会の指導の下に、当サポートセンターが中心となって取り組むことになります。この事業を活用して、乳牛・肉牛・養豚・養鶏関係の技術向上に関する研修会等を開催する予定ですので、ご期待ください。

② 生産コスト低減畜産生産技術開発推進事業（平成22～24年度）

当サポートセンターは、県内の「NPO法人エコグループ市原」が取り組もうとする標記事業の「河川堤防刈り草を有効活用した乳牛用発酵TMR飼料の開発による牛生産コスト削減効果の評価」に共同開発者として参加することになりました（収穫調製・TMR調製・給与実証）。

これは畜産技術協会の事業で、「河川堤防刈り草・・・」が畜産経営における生産コストの低減を図るものとして多数の応募課題の中から採択されたものの一つです。河川堤防を管理する国土交通省とも連携しております。

③ 公庫資金活用推進事業（平成22年度～）

この事業は、株式会社日本政策金融公庫（農林水産事業本部）の資金借入を希望する経営体について現状等を把握し、借入計画の作成支援や経営相談に対する助言等を行うものです。

◆当サポートセンターの平成22年度総会及び畜産研修会について

当サポートセンターの平成22年度総会及び畜産研修会は5月18日終了しました。

これまでの研修会においては行政関係等の情報を提供しましたが、今回は生産現場からNPOに期待するものと、当会員がNGO隊員として関わっているネパールの畜産事情についての話題提供でした。（事務局 高梨）

◎入会申込みや畜産に関するご相談等をお待ちしております。

お問い合わせは・・・

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局

（（社）千葉県畜産協会内）

TEL:043-242-6333

FAX:043-238-1255

正会員 57（内、団体8）
賛助会員 2（団体）

「食の安全・安心」のための第1歩は、
「法令遵守」であることを改めて認識してください。

編集後記

当協会が取り扱う事業内容の大幅な見直し等があり、できるだけ変更内容を掲載したいとの思惑から発行が5月にずれこんでしまいました。早々と原稿をアップしていただいた方々にはご迷惑をおかけいたしました。

事業の詳細については現在においても不明な点が多く、今後の紆余曲折が予測されます。当協会としましては、正確な情報を見極め、できるだけ早く皆様方にお知らせするよう努めております。

さて、4月20日に衝撃的な情報として飛び込んでまいりました宮崎県における「口蹄疫」発生のニュース、現在では燎原の火のごとく広がり10年前の同県での発生とは様相も規模も大幅に異なっており、痛ましい限りです。

ただでさえ経営不振に喘いでいる全国の畜産関係者にとって死活問題に発展することも危惧されており、一日も早い封じこみ、終息が祈念されております。

先行き不透明なことが多く心配の種が尽きない状況ですが、「ネットワークちば」が闇夜の一点ともなれるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。（事務局長 新城）

総務部	TEL 043-242-5417(代)	FAX 043-238-1255	info@chiba.lin.gr.jp
企画経営部	TEL 043-242-6333	FAX 043-238-1255	takeda@swan.ocn.ne.jp
酪農肉牛課	TEL 043-242-8299	FAX 043-238-1255	miyagami@swan.ocn.ne.jp
養豚課	TEL 043-241-3851	FAX 043-241-3853	kato@np-chiba.jp
衛生環境部	TEL 043-241-1738	FAX 043-241-3853	chieishi@aoros.ocn.ne.jp